

学校評価（令和 7 年度）についての公表

そうけい幼稚園

本年度の自己評価・関係者評価を以下にまとめましたので、お知らせします。

1. 本園の教育目標

双恵幼稚園は、教育基本法および学校教育法に従いつつ、幼児にキリスト教的また一般的教導を与え、神の子の全き姿に育成する

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

項目ごとに評価点検をすることによって、教職員自らおよび関係者が客観的に自園を評価し、園の改善に主体的に取り組んでいく

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
建学精神や教育目標に基づく園の運営	A	教職員が頻繁に会議を開き、カリキュラムを作成し、その内容を実施している
日常の健康観察や健康診断の実施と把握	A	所定の規則に従って、日々に園児の健康管理に注意している。保護者も幼稚園に対して協力的である。
安全点検や教員の安全対応能力の向上	B	新園舎が完成したが、細心の注意を払い、日常点検を実施し、話し合いを重ねる
職員会議の運営	A	全体、学年、クラスに応じ、定期的に臨時的に、活発な会議を実施している。多くの助手を含めチームワークを大切にする
園便りやクラス便りの発行など、保護者との情報交換	A	定期的にプリントを配布したり、配信アプリを活用し、情報の共有・発信に努めている

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

結 果	理 由
A	助手を含めた全教職員が、学校評価の目的を理解し、各自が適切に自己点検に取り組んでいる。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
特別支援	昨今、発達障害などの要支援児は増加の一途であり、保護者が相談する専門機関との情報共有が重要である。園では、対処療法的な対応にならないように留意する。
安全管理	新園舎の使い方をはじめ、園庭の起伏など、子どもに何が起きるかを想定し、さらに予防策を講じる。
幼小接続	「架け橋プログラム」に対応すべく、小学校や専門機関とさらなる情報共有の充実に努める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

結 果	理 由
A	全教職員が、学校評価の目的を理解し、各自が適切に自己点検に取り組んでいる。